

- ・常に人命の尊重と人間愛に基づいた医療・介護につとめます。
- ・全ての人に平等に心身両面にわたる医療・介護につとめます。
- ・地域の人達から信頼されるよう研鑽と協調をすすめます。

病院の取り組み ~ 終末期医療 ~

“患者さんとご家族が満足されるような終末期医療を提供できる事”が療養病院に求められる重要な要素の一つと考え、平成15年2月から終末期医療プロジェクトチームが中心となり、組織的に取り組んでいます。

患者さんの自己決定を尊重します

- ・プロジェクトチームのメンバーが、患者さんのお元気な時に、「あなたは人生の最期をどのように送りたいと願われていますか」と問いかけて、意思確認を行い、その希望を叶えることが出来るよう配慮します。
- ・限られた時間の中で死を受容され、その人らしい生き方が全う出来るよう「最後まで口から食べたい」「お風呂に入りたい」等のご希望を尊重し援助します。
- ・痛みをコントロールし、穏やかな時間を過ごして頂くことにより、尊厳を持って安らかな死を迎えられるよう支援します。

終末期ケアプラン会議を実施します

- ・ご家族と病院スタッフが、患者さんの意思を踏まえ、死の瞬間までのプロセスについて話し合います。
- ・ご家族のご意向を伺い、出来る限りその思いに添えるように配慮します。



患者さんとご家族がふれ合う時間を大切にします

- ・最期が近づいた時は個室を準備し、命の終焉を迎えるまでご家族が周囲に気を使うことなく、患者さんとゆっくり密な時間をわかち合えるよう配慮します。その際、個室料金など経済的な負担はありません。



退院される時は、

正面玄関から職員がお見送りさせていただきます

- ・故人と生前親しかった患者さんも、一緒に最後のお別れをすることもあります。
- ・患者さんが退院される時、ご家族の希望があれば、着せて帰りたいと思われる衣服を準備していただいています。

平成18年4月、富山県が「終末期医療の実態調査」を実施

富山県下の全105病院(急性期、慢性期、国立、公立、私立全てを含む)を対象に終末期医療の実態調査が実施されました。「病院の方針を明確にし、マニュアルを整備している」と回答した病院は、8病院(7.3%)しかなく、その中の一つが当院でした。

職員一同の想い

患者さんが主役であり、寄り添うご家族の心が癒されるよう、そして、当院で最期を迎えられる全ての患者さん及びご家族に「人生の最期をふくの若葉病院で迎える事が出来て良かった」と言って頂けるような終末期ケアを、これからも提供していきたいと考えています。

終末期医療プロジェクトチームの活動

- ・毎月1回の定例会の開催
- ・終末期ケア業務マニュアルの作成及び見直し
- ・終末期に関するアンケート調査の実施

終末期に関するアンケート

終末期ケアを更に実りあるものにするため、患者さんが亡くなられた後、ご家族にアンケート形式で、ご意見を伺っています。

* 終末期の対応について

* 終末期カンファレンスについて

アンケート結果は、ホームページの『終末期に関する調査結果』をご覧ください。

当院のホームページ紹介

<http://www1.tst.ne.jp/wakaba/>



ブログを開設！！

病院の活動、委員会やプロジェクトの取り組み、日々の出来事などを紹介しています。



当院のホームページからご覧下さい。

新年の会

1月17日(水)病棟において“新年の会”が開催されました。患者さんや利用者さんに御神酒と初釜で正月の気分を味わっていただきました。そして、風音会の皆さんによる、『越中おわら節』、『歌謡舞踊～きよしのズンドコ節、あこがれのハワイ航路～』の初踊りを披露していただきました。



ピアノ演奏

昨年9月から毎月1～2回、1階エントランスホールにおいて、ピアノ教室を主宰されている大江先生がピアノ演奏会を開いてくださっています。患者さんや利用者さんに馴染み深い童謡や流行歌などのピアノ伴奏に合わせ全員で合唱しています。

入院患者さんや通所リハビリテーションの利用者さんから、「懐かしい曲ばかりで楽しかった」「みんなで歌うから気持ちがいいね」「先生のピアノ伴奏は上手でとても素敵やね」などの感想が毎回寄せられています。

昨年の12月27日にはピアノ教室の生徒さんたちによる“幸トーンの会”が開催され、『よろこびのうた』や『エーデルワイス』など練習してきた曲を上手に演奏していただきました。



病棟音楽会

2月21日(水)2階の食堂ホールにおいて、当院の音楽療法サークルによる“病棟音楽会”が開催されました。学生時代に合唱部に所属していた職員が、『この道』と『早春賦』の2曲を独唱し、ハープの奏でる音色に感銘を受け1年前から練習している職員が、『きらきら星』と『冬景色』の2曲を演奏しました。また、患者さんと職員も交え全員で『春よ来い』など3曲を合唱しました。患者さんからは「普段のユニフォーム姿から想像できないくらい、素敵ですばらしい歌と演奏やったね」などの感想が寄せられました。



編集後記

春の心地よい季節は、なぜか、はりきりたくなりませんか？3年目になる広報委員会は新メンバーを迎え、ますます張り切っています。広報誌を作る難しさ乗り越え、作る楽しみを感じることが出来るよう新メンバーの皆さんの活躍を期待しています。

これからも楽しく、読みやすい紙面作りにスタッフ一同頑張りますのでよろしくお願ひします。ご意見やご感想などがありましたらお聞かせ下さい。



福野中学校1年生の慰問

1月17日(水)病棟の食堂ホールにおいて、南砺市立福野中学校の1年生18名が「総合的な学習の時間～よさこいコース～」の授業で創作した『よさこい踊り』の振り付け4曲『夜高2004』『夏祭り』など躍動感と迫力がある踊りを披露してくださいました。また、患者さんや利用者の皆さんとお話しや肩もみをしたり、『夢の世界』などを歌い、『こきりこ節』を患者さんと職員も交え全員で合唱しました。



福野小学校4年生の慰問

2月7日(水)通所リハビリテーションと病棟の食堂ホールにおいて、南砺市立福野小学校の4年生46名が踊りや歌などを披露してくださいました。患者さんや利用者さんは、小学生の縦笛の演奏や『もみじ』などの合唱を聴いたり、元気で躍動感のある『よさこい踊り』を観たりして、なごやかな雰囲気楽しんでおられました。また、肩もみやゲームを通して楽しくふれ合い、最後に小学生から折り紙作品がプレゼントされ、代表して受け取った患者さんは「ありがとう、ありがとう」と感謝されていました。



東部保育園と第一保育園の園児の慰問

3月7日(水)“ひな祭り会”を開催しました。2階病棟では南砺市立福野第一保育園の園児22名が、太鼓の撥を使った『祭り踊り』と『組み体操』を、3階病棟には南砺市立福野東部保育園の園児9名が訪れ、『うれしいひなまつり』や『よさこい踊り』などの歌や踊りを披露してくださいました。また、園児と入院患者さんや利用者さんが肩たたきを通して楽しくふれ合いました。最後に、各階病棟の入院患者さんの代表者から、「今日は本当にありがとう！楽しい踊りとかわいい歌声でした。皆さんの元気なパワーをもらうことができました」などの言葉が伝えられ、感謝の気持ちをこめて園児の皆さんにお菓子がプレゼントされました。患者さんや利用者さんは、園児たちの元気よく飛び跳ねる姿や楽しそうに歌う姿を見て、とても嬉しそうに喜んでくださいました。



日本医療機能評価機構認定療養病院

医療法人社団 良俊会 [診療時間] 午前9時～12時
午後1時～4時

ふくの若葉病院

南砺市苗島367番地 TEL 23-1011 FAX 23-1020

ホームページ <http://www1.tst.ne.jp/wakaba/>
メール wakaba@p1.tst.ne.jp

